

シラバス(介護職員初任者研修)

科目名/担当教官	職務の理解/剣持あゆみ(介護福祉士)
到達目標	○研修に先立ち、これからの介護を目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージをもっと実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。
指導の視点	○研修過程全体(130時間)の構成と各研修科目(10科目)の相互の関連性の全体像をあらかじめイメージできるようにし、学習内容を体系的に整理して知識を効率・効果的に学習できるような素地の形成を促す。 ○視聴覚教材等を工夫するとともに、必要に応じて見学を組み合わせるなど、介護職が働く現場や仕事の内容を、出来るかぎり具体的に理解させる。
授業項目	内容
多様なサービスの理解	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険による居宅サービス ・介護保険による施設サービス ・介護保険外のサービス
介護職の仕事内容や働く現場の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ・居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ (視聴覚教材の活用、現場職員の体験談等) ・ケアプランの位置付けに始まるサービス提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域社会資源との連携
使用教材	介護職員初任者研修テキスト1(介護のしごとの基礎)中央法規出版

科目名/担当教官	介護における尊厳の保持・自立支援/長坂健司(介護福祉士)
到達目標	○介護職が、利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点を理解する。
指導の視点	○具体的な事例を複数示し、利用者およびその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違い、自立という概念に対する気づきを促す。 ○具体的な事例を複数示し、利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化の防止・遅延化に資するケアへの理解を促す。 ○利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考えさせ、尊厳という概念に対する気づきを促す。 ○虐待を受けている高齢者への対応方法についての指導を行い、高齢者虐待に対する理解を促す。
授業項目	内容
人権と尊厳を支える介護	①人権と尊厳の保持 ・個人として尊重、・アドボカシー、・エンパワメントの視点、・「役割」の実感、・尊 厳のある暮らし、・利用者のプライバシーの保護 ②ICF ・介護分野におけるICF ③QOL ・QOLの考え方、・生活の質 ④ノーマライゼーション ・ノーマライゼーションの考え方 ⑤虐待防止・身体拘束禁止 ・身体拘束禁止、・高齢者虐待防止法、・高齢者の養護者支援 ⑥個人の権利を守る制度の概要 ・個人情報保護法、・成年後見制度、・日常生活自立支援事業
自立に向けた介護	①自立支援 ・自立、自律支援、・残存能力の活用、・動機と欲求、・意欲を高める支援、・個性性／ 個別ケア、・重度化防止 ②介護予防 ・介護予防の考え方
使用教材	介護職員初任者研修テキスト1(介護のしごとの基礎)中央法規出版

科目名/担当教官	介護の基本/飯野浩史(介護福祉士)
到達目標	○介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解する。 ○介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援をとらえることができる。
指導の視点	○可能な限り具体例を示す等の工夫を行い、介護職に求められる専門性に対する理解を促す。 ○介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解するとともに、場合によってはそれに一人に対応しようとせず、サービス提供責任者や医療職と連携することが重要であると実感できるよう促す。
授業項目	内容
介護職の役割、 専門性と多職種との連携	①介護環境の特徴の理解 ・訪問介護と施設介護サービスの違い、・地域包括ケアの方向性 ②介護の専門性 ・重度化防止・遅延化の視点、・利用者主体の支援姿勢、・自立した生活を支えるための 援助、・根拠のある介護、・チームケアの重要性、・事業所内のチーム、・多職種から成るチーム ③介護に関わる職種 ・異なる専門性を持つ多職種の理解、・介護支援専門員、・サービス提供責任者、・看護師等とチームとなり利用者を支える意味、・互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供、・チームケアにおける役割分担
介護職の職業倫理	職業倫理 ・専門職の倫理の意義、・介護の倫理(介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等)・介護職としての社会的責任、・プライバシーの保護、尊重
介護における安全の確保と リスクマネジメント	①介護における安全の確保 ・事故に結びつく要因を探り対応していく技術、・リスクとハザード ②事故予防、安全対策 ・リスクマネジメント、・分析の手法と視点、・事故に至った経緯の報告(家族への報告、市町村への報告等)、・情報の共有
介護職の安全	介護職の健康管理が介護の質に影響、・ストレスマネジメント、・腰痛の予防に関する知識、・手洗い、うがいの励行、・手洗いの基本、・感染症対策
使用教材	介護職員初任者研修テキスト1(介護のしごとの基礎)中央法規出版

科目名/担当教官	介護・福祉サービスの理解と医療との連携/佐野淑子(介護支援専門員)、小林信二(看護師)、橋本仙澄(社会福祉士)
到達目標	○介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを習得する。
指導の視点	○介護保険制度・障害者自立支援制度を担う一員として、介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。 ○利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その生活を支援するための介護保険制度、障害者自立支援制度、その他の制度のサービスの位置づけや、代表的なサービスの理解を促す。
授業項目	内容
介護保険制度	①介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ・ケアマネジメント、・予防重視型システムへの転換、・地域包括支援センターの設置、・地域包括ケアシステムの推進 ②仕組みの基礎的理解 ・保険制度としての基本的仕組み、・介護給付と種類、・予防給付、・要介護認定の手順 ③制度を支える財源、組織・団体の機能と役割 ・財政負担、・指定介護サービス事業者の指定
医療との連携とリハビリテーション	・医行為と介護、・訪問看護、・施設における看護と介護の役割・連携、・リハビリテーションの理念
障害者自立支援制度およびその他の制度	①障害福祉制度の理念 ・障害の概念、・ICF(国際生活機能分類) ②障害福祉制度の仕組みの基礎的理解 ・介護給付、訓練等給付の申請から支給決定まで ③個人の権利を守る制度の概要 ・個人情報保護法、・成年後見制度、・日常生活自立支援事業
使用教材	介護職員初任者研修テキスト1(介護のしごとの基礎)中央法規出版

科目名/担当教官	介護におけるコミュニケーション技術/橋本仙澄(介護福祉士)
到達目標	○高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを図ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限のとりべき(とるべきでない)行動例を理解する。
指導の視点	○利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることへの気づきを促す。 ○チームケアにおける専門職種でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であることへの気づきを促す。
授業項目	内容
介護におけるコミュニケーション	①介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ・相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、・傾聴、・共感の応答 ②コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ・言語的コミュニケーションの特徴、・非言語コミュニケーションの特徴 ③利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ・利用者の思いを把握する、・意欲低下の要因を考える、・利用者の感情に共感する、・家族の心理的理解、・家族へのいたわりと励まし、・信頼関係の形成、・自分の価値観で 家族の意向を判断し非難することがないようにする、・アセスメントの手法とニーズと デマンドの違い ④利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 ・視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術、・失語症に応じたコミュニケーション技術、・構音障害に応じたコミュニケーション技術、・認知症に応じたコミュニケーション技術
介護におけるチームのコミュニケーション	①記録における情報の共有化 ・介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録、・介護に関する 記録の種類、・個別援助計画書(訪問・通所・入所、福祉用具貸与等)、・ヒヤリハット 報告書、・5W1H ②報告 ・報告の留意点、・連絡の留意点、・相談の留意点 ③コミュニケーションを促す環境 ・会議、・情報共有の場、・役割の認識の場(利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼)、・ケアカンファレンスの重要性
使用教材	介護職員初任者研修テキスト1(介護のしごとの基礎)中央法規出版

科目名/担当教官	老化の理解/秋山千奈美(看護師)
到達目標	○加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する。
指導の視点	○高齢者に多い心身の変化、疾病の症状等について具体例を挙げ、その対応における留意点を説明し、介護において生理的側面の知識を身につけることの必要性への気づきを促す。
授業項目	内容
老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴	①老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ・防衛反応(反射)の変化、・喪失体験 ②老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 ・身体的機能の変化と日常生活への影響、・咀嚼機能の低下、・筋・骨・関節の変化、・体温維持機能の変化、・精神的機能の変化と日常生活への影響
高齢者と健康	①高齢者の疾病と生活上の留意点 ・骨折、・筋力の低下と動き、姿勢の変化、・関節痛 ②高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 ・循環器障害(脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患)、・循環器障害の危険因子と対策、・老年期うつ病症状(強い不安感、焦燥感を背景に、「訴え」の多さが全面に出る、うつ病性 仮性認知症)、・誤嚥性肺炎、・病状の小さな変化に気付く視点、・高齢者は感染症にかかりやすい
使用教材	介護職員初任者研修テキスト1(介護のしごとの基礎)中央法規出版

科目名/担当教官	認知症の理解/小林信二(看護師)
到達目標	○介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護するときの判断の基準となる原則を理解する。
指導の視点	○認知症の利用者の心理・行動の実際を示す等により、認知症の利用者の心理・行動を実感できるよう工夫し、介護において認知症を理解することの必要性への気づきを促す。 ○複数の具体的なケースを示し、認知症の利用者の介護における原則についての理解を促す。
授業項目	内容
認知症を取り巻く状況	認知症ケアの理念 ・パーソンセンタードケア、・認知症ケアの視点(できることに着目する)
医学的側面からみた認知症の基礎と健康管理	認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理 ・認知症の定義、・もの忘れとの違い、・せん妄の症状、・健康管理(脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア)、・治療、・薬物療法、・認知症に使用される薬
認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	①認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ・認知症の中核症状、・認知症の行動・心理症状(BPSD)、・不適切なケア、・生活環境で改善 ②認知症の利用者への対応 ・本人の気持ちを推察する ・プライドを傷つけない ・相手の世界に合わせる ・失敗しないような状況をつくる ・すべての援助行為がコミュニケーションであると考え、・身体を通じたコミュニケーション、・相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する、・認知症の進行に合わせたケア
家族への支援	・認知症の受容過程での援助、・介護負担の軽減(レスパイトケア)
使用教材	介護職員初任者研修テキスト1(介護のしごとの基礎)中央法規出版

科目名/担当教官	障害の理解/小林信二(看護師)
到達目標	○障害の概念とICF, 障害者福祉の基本的な考え方について理解し, 介護における基本的な考え方について理解する。
指導の視点	○介護において障害の概念とICFを理解しておくことの必要性の理解を促す。 ○高齢者の介護との違いを念頭におきながら, それぞれの障害の特性と介護上の留意点に対する理解を促す。
授業項目	内容
障害の基礎的理解	①障害の概念とICF ・ICFの分類と医学的分類、・ICFの考え方 ②障害福祉の基本理念 ○ノーマライゼーションの概念
障害の医学的側面, 生活障害などの基礎知識	①身体障害 ・視覚障害、・聴覚、平衡障害、・音声、言語、咀嚼障害、・肢体不自由、・内部障害 ②知的障害 ・知的障害 ③精神障害(高次脳機能障害・発達障害を含む) ・統合失調症・気分(感情障害)、依存症などの精神疾患、・高次脳機能障害、・広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害などの発達障害 ④その他の心身の機能障害
家族の心理, かわり支援の理解	家族への支援 ・障害の理解、障害の受容支援、・介護負担の軽減
使用教材	介護職員初任者研修テキスト1(介護のしごとの基礎)中央法規出版

科目名/担当教官	こころとからだのしくみと生活支援技術/浅沼通彦(介護福祉士)、飯野みどり(介護福祉士)、佐野淑子(介護福祉士)、天川かよこ(介護福祉士)、長坂健司(介護福祉士)
到達目標	○介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ○尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。
指導の視点	○介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識と介護の流れを示しながら、視聴覚教材や模型を使って理解させ、具体的な身体の一部の名称や機能等が列挙できるように促す。 ○サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供しかつ不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す。 ○例えば『食事の介護技術』は「食事という生活の支援」と捉え、その生活を支える技術の根拠を身近に理解できるように促す。さらに、その利用者が満足する食事が提供したいと思う意欲を引き出す。他の生活場面でも同様とする。 ○「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるように、身近な素材からの気づきを促す。
授業項目	内容
【基本知識の学習】	
介護の基本的な考え方	・理論に基づく介護(ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除)、・法的根拠に基づく介護
介護に関するこころのしくみの基礎的理解	・学習と記憶の基礎知識、・感情と意欲の基礎知識、・自己概念と生きがい、・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因、・こころの持ち方が行動に与える影響、・からだの状態がこころに与える影響
介護に関するからだのしくみの基礎知識	・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、・骨、関節、筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用、・中枢神経系と体性神経に関する基礎知識、・自律神経と内部器官に関する基礎知識、・こころとからだを一体的に捉える、・利用者の様子の普段との違いに気づく視点
【生活支援技術の講義と演習】	
生活と家事	家事と生活の理解、家事援助に関する基礎知識と生活支援 ・生活歴、・自立支援、・予防的な対応、・主体的、能動性を引き出す、・多様な生活習慣、・価値観
快適な居住環境整備と介護	快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 ・家庭内に多い事故、・バリアフリー、・住宅改修、・福祉用具貸与

<p>整容に関連した ところとからだのしくみと 自立に向けた介護</p>	<p>整容に関する基礎知識、整容の支援技術 ・身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、・身じたく、・整容行動、・洗面の意義・効果</p>
<p>移動・移乗に関連した ところとからだのしくみと 自立に向けた介護</p>	<p>移動・移乗に関する基礎知識、さまざま移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援 方法、移動と社会参加の留意点と支援 ・利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法、・利用者の自然な動きの活用、・残存能力の活用・自立支援、・重心・重力の働きの理解、・ボディメカニクスの基本原則、・移乗 介助の具体的な方法(車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の 移乗、全面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗)、・移動介助(車いす・歩行器・つえ 等)、褥瘡予防</p>
<p>食事に関連した ところとからだのしくみと 自立に向けた介護</p>	<p>食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形 態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食 事と社会参加の留意点と支援 ・食事をする意味、・食事のケアに対する介護者の意識、・低栄養の弊害、・脱水の弊 害、・食事と姿勢、・咀嚼・嚥下のメカニズム、・空腹感、・満腹感、・好み、・食事の 環境整備(時間・場所等)、・食事に関した福祉用具の活用と介助方法、・口腔ケアの定 義、・誤嚥性肺炎の 予防</p>
<p>入浴・清潔保持に関連した ところとからだのしくみと 自立に向けた介護</p>	<p>入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい 入浴を阻害するところとからだの要因の理解と 支援方法 ・羞恥心や遠慮への配慮、・体調の確認、・全身清拭(身体状況の確認、室内環境 の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体を支え方)、・目・鼻腔・耳・爪の清掃 方法、・陰部清浄(臥床状態での方法)、・ 足浴・手浴・洗髪</p>
<p>排泄に関連した ところとからだのしくみと 自立に向けた介護</p>	<p>排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻 害するところとからだの要因の理解と支援方 法 ・排泄とは、・身体面(生理面)での意味、・心理面での意味、・社会的な意味、・プ ライド・羞恥 心、・プライバシーの確保、・おむつは最後の手段／おむつ使用の弊害、・排 泄障害が日常生活上に及ぼす影響、・排泄ケアを受けるこ とで生じる心理的な負担・尊厳 や生きる意欲との関連、・一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的な方法、・便秘の 予防(水分の摂 取量保持、食事内容の工夫／繊維質の食物を多く取り入れる、腹部マッサ ージ)</p>
<p>睡眠に関連した ところとからだのしくみと 自立に向けた介護</p>	<p>睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ・安眠のための介護の工夫、・環境の整備(温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室)、・安楽な姿勢・褥瘡予防</p>
<p>死にゆく人に関連した ところとからだのしくみと 終末期介護</p>	<p>終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合 うところの理解、苦痛の少ない死への支援 ・終末期ケアとは、・高齢者の死に至る過程(高齢者の自然死(老衰)、癌死)、・臨終が 近づいたときの兆候と介護、・介護従事者の基本 的態度、・多職種間の情報共有の必要性</p>

【生活支援技術演習】	
介護課程の基礎的理解	・介護過程の目的・意義・展開、・介護過程とチームアプローチ
総合生活支援技術演習	(事例による展開) 生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。 ・事例の提示→支援技術演習→支援技術の課題(1事例1.5時間程度で上のサイクルを実施する)、 ・事例は高齢(要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可)から2事例を選択して実施
使用教材	介護職員初任者研修テキスト2(自立に向けた介護の実際)中央法規出版、プリント、DVD等

科目名/担当教官	振り返り/長坂健司(介護福祉士)
到達目標	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の
指導の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅、施設の何れの場合であっても、「利用者の生活の拠点と共に居る」という意識を持って、その状態における模擬演習(身だしなみ、言葉遣い、対応の態度等の礼節を含む。)を行い、業務における基本的態度の視点を持って介護を行えるよう理解を促す。 ・研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを演習等で受講者自身に表出・言語化させたうえで、利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について講義等により再確認を促す。 ・修了後も継続的に学習することを前提に、介護職が身につけるべき知識や技術の体系を再掲するなどして、受講者一人ひとりが今後何を継続的に学習すべきか理解できるよう促す。 ・最新知識の付与と、次のステップ(職場環境への早期適応等)へ向けての課題を受講者が認識できるよう促す。 ・介護職の仕事内容や働く現場、事業所等における研修の実例等について、具体的なイメージを持たせるような教材の工夫、活用が望ましい。(視聴覚教材、現場職員の体験談等)
授業項目	内容
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきこと ・根拠に基づく介護についての要点(利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等)
就業への備えと研修修了後における継続的な研修	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に学ぶべきこと、 ・研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例(Off-JT、OJT)を紹介
使用教材	プリント、DVD等